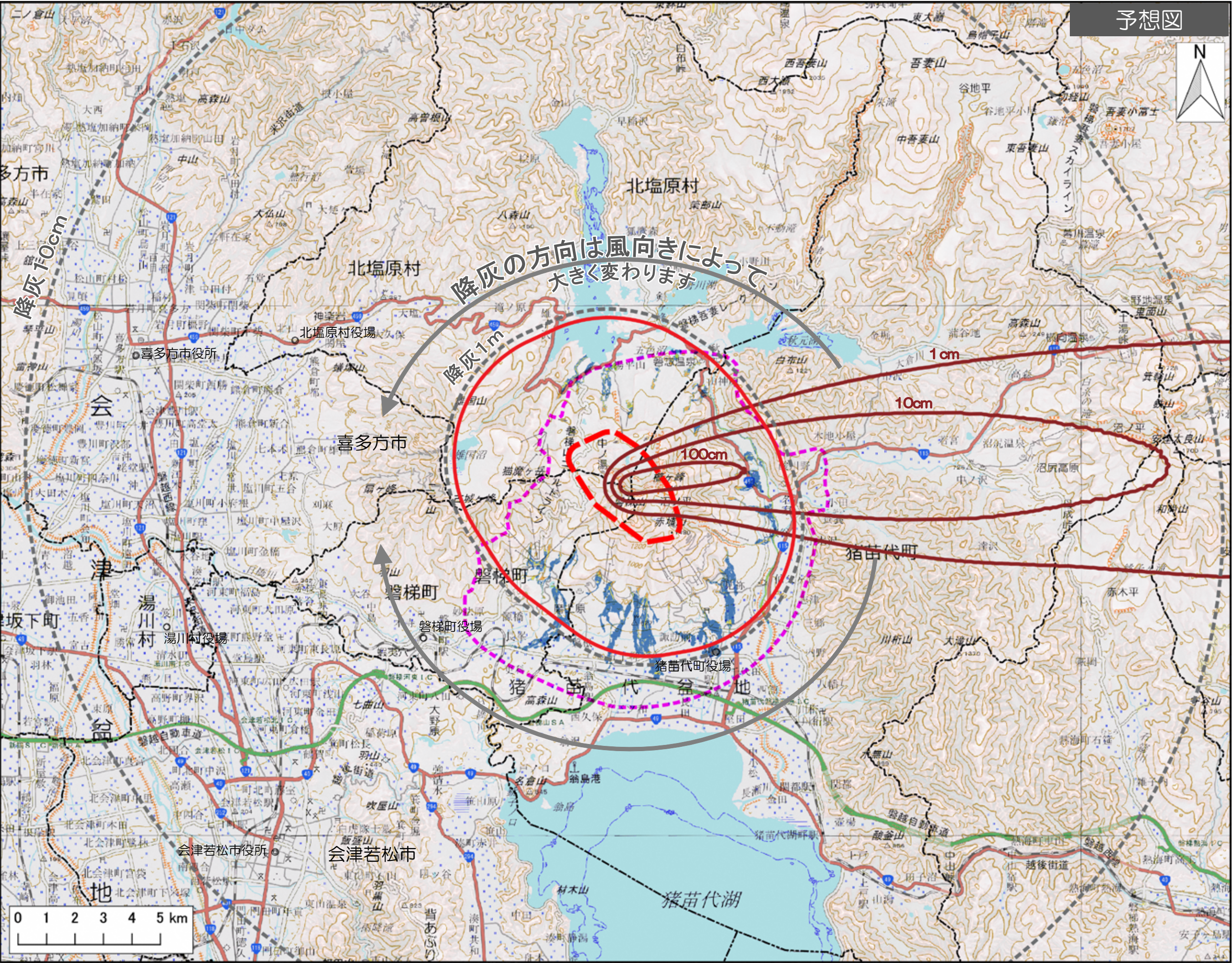


水蒸気噴火のハザードマップ ●この図は水蒸気噴火（噴出量は3000万m³：磐梯山1888年噴火相当）が発生した場合のハザードマップです。



- 大きな噴石が、火口から4kmの範囲に飛散します。
- 降灰の分布は、上空の風向きによって大きく変わります。磐梯山上空の風は年間を通して西風が多く、東側に分布することが多い傾向にあります。
- 火砕サージは火口から約4～6kmの範囲に広がります。火口のできる位置によって分布範囲が変わり、火口が北側に出来れば北側、南側に出来れば南側に広がります。
- 降灰した範囲では、噴火後の降雨で「降灰後の土石流」が発生します。この図では100年に1回の大雨（日雨量約165mm）が降った場合の土石流の浸水高を示しています。
- 降灰後の土石流が流れる場所や土石流の規模は、降灰の範囲や降った雨の量などで変わってきます。

＜凡 例＞

- 想定火口範囲
- 大きな噴石
- 降灰（西風の場合）※想定火口範囲の中心から噴火した場合
- 降灰（西風以外の場合）※想定火口範囲の縁から噴火した場合
- 火砕サージ

降灰後の土石流の浸水高（目安となる氾濫水深）

- 2m以上
- 2m未満～50cm以上
- 50cm未満（大人のひざ上）

--- 県 境

--- 市町村境

— 国 道

— 高速道路

— 鉄 道

※「火砕サージ」災害予想区域図は、想定火口範囲の10地点から火砕サージが流下した場合の想定範囲を数値計算により算出して全て重ねたもので、1回の噴火で全ての方向に火砕サージが流れ下るわけではありません。

※「降灰後の土石流」災害予想区域図は、磐梯山に源流域をもつ溪流に100年に1回の大雨（日雨量約165mm）が降った場合に、各溪流内に降った水量とその水量で下流に運ばれた土砂が氾濫した場合の想定範囲を数値計算により算出したものです。